

# 第6期（2025年度後期）事業報告書

特定非営利活動法人生徒会活動振興会

WELCOME ADDRESS FROM THE NEW CHAIRMAN

## 理事長交代挨拶

当会は2025年12月1日付で、理事長を阿部亮太から針尾勇輝へ交代しました。創設以来、当会は生徒会活動支援を通じて、次世代の公共人材育成と学校・社会への価値提供に取り組んできました。今回の理事長交代は、こうした取り組みをさらに発展させるとともに、「世代交代」と「知見の蓄積」を両立する持続可能な組織基盤を構築するために実施したものです。



創設者・前理事長  
阿部亮太

新理事長  
針尾勇輝

### —理事長交代の目的/阿部前理事長より

## 提供価値のさらなる向上に向け、 団体の持続的な成長を目指す

当会は2023年度の設立以来、生徒会活動の支援を通じた人材の育成を目指し、様々な切り口から価値の提供に取り組んできました。2026年度以降も引き続き活動を進めるのは当然のこと、さらに活動の量、質を向上させていくためには、安定的な世代交代を進めることが求められます。2025年12月という時期は、そのような目的から最高のタイミングでした。

当会の設立以来蓄積された豊富な経験や知見を円滑に継承し、組織としてのさらなる成長に繋がります。

私が最後にやるべき仕事は、当会メンバーのさらなる育成です。メンバー1名1名の能力の最大化がすべての関係者に提供できる価値の最大化につながるとの確信のもと、残された期間を最大限に活用し理事、幹部、メンバー及びすべての支援先メンバーの育成に努めてまいります。

### —新理事長として目指す姿/針尾新理事長より

## 全国の生徒会活動を支えるため、支援体制の強化を促進する

生徒会活動を取り巻く環境は、学校ごとの情報格差や担い手不足など、多くの課題を抱えています。

そうした中で、全国の生徒会がより主体的かつ継続的に活動できる環境を整えるためには、支援体制のさらなる強化が必要です。

当会では、学校や関連団体との連携を深めながら、生徒会役員同士の交流機会の創出や、全国の生徒会情報の提供を通じて、日本の生徒会活動を多角的にサポートしてまいります。



WELCOME ADDRESS FROM THE NEW CHAIRMAN

# 役員紹介

## 戦略的な役員人事の更新で、長期的目線から安定的な運営と提供価値の向上を狙う

2027年度以降の安定的な運営と提供価値の向上を見据え、2025年度前期、後期合計で理事5名中4名の世代交代を決定しました。段階的な世代交代により、2025年6月、12月、2026年4月にそれぞれ実施し、従来の知見の蓄積と新規価値の相乗効果を目指します。



**理事長**

**針尾 勇輝** HARIO Yuki

加入 2025.4 理事長就任 2025.12

keyword 組織運営/福岡/広報/人材育成/UNITY/戦略的外部連携/組織改革/広報戦略/編集/甲子園/団体支援/企画・運営

担当分野 広報/甲子園/編集/人事/戦略的外部連携

**理事**

**門田 裕太郎** KADOTA Yutaro

加入 2023.4 理事就任 2023.4

keyword 組織運営/首都圏/広報/人材育成/研修設計/戦略的外部連携/組織改革/広報戦略/目的意識/統合運用/団体支援/学校支援

担当分野 法務/団体支援/交流設計/戦略的外部連携

**理事**

**須賀 真都** SUGA Manato

加入 2023.4 理事就任 2023.4

keyword 組織運営/首都圏/広報/人材育成/研修設計/戦略的外部連携/組織改革/広報戦略/目的意識/統合運用/団体支援/学校支援

担当分野 法務/団体支援/交流設計/戦略的外部連携

**理事**

**阿部 亮太** ABE Ryota

加入 2023.4 理事就任 2023.4

keyword 組織運営/首都圏/広報/人材育成/研修設計/戦略的外部連携/組織改革/広報戦略/目的意識/統合運用/団体支援/学校支援

担当分野 法務/団体支援/交流設計/戦略的外部連携

**理事**

**小栗 秀貴** OGURI Hideki

加入 2024.1 理事就任 2025.7

keyword 組織運営/編集事業/広報/人材育成/生徒会の現状/情報変革/組織改革/広報戦略/教員の協力/統合運用/団体・学校支援

担当分野 編集/情報技術/法務

**監事**

**田口 壱星** TAGUCHI Issei

加入 2023.4 理事就任 2023.4

keyword 監査全般

担当分野 監査全般

VALUE CREATION MODEL

# 価値創造モデル

生徒会活動振興会が目指すのは、生徒一人ひとりが主体性を発揮し、学校や地域、社会の未来を創造できる環境の実現です。全国の生徒会ネットワークや多様な連携を基盤に、人材・知識・関係性といった資本を最大限に活用して多角的な事業を推進することにより、生徒会と社会の新たな関係価値を創出していきます。

## Mission

### 生徒会を通じた人材育成のため、 情報伝達システムを変革する



2025 SECOND HALF ACTIVITY REPORT

## 2025年度後期活動報告-総括

## 全事業の拡大、深化により、 全国生徒会への提供価値の向上が続く

2025年度後期は地域コミュニティに対する支援事業や学校伴走支援事業、また生徒会甲子園事業、編集事業等の全領域において、活動の拡大や深化が進みました。

地域コミュニティ事業においては支援先団体数の拡大が続くとともに、企画数や支援先団体1つ1つの拡大も続いています。また、当会の支援能力の強化を見据え、各種内部研修の強化や支援手法の定型化も進めています。

学校伴走支援では相馬市立向陽中学校への支援を引き続き実施し、より生徒会自体が主体的に活動を行うことができるよう指導を提供しました。また、当会内部において従来の課題となっていた省力化を実現するとともに、より効果的な研修の在り方を実現するために徹底的な課題解決を行いました。また、向陽中学校への支援によりわかった「主体的な生徒会を創るための方法」について研究を行い、レポートとして公開する予定です。

編集事業においては、従来の課題となっていた「安定的な記事数の確保」を目指し、記事執筆の在り方について定型化を進めました。結果として後期の記事数は、運営陣を前期より減らしたにも関わらず増加しています。

生徒会甲子園事業は2025年度が初めて実施となりましたが、多くの参加者が先進事例を持ち寄り競い合うことで先進事例の拡大に努めました。2026年度はさらなる強化に向け、活動を進めてまいります。

## 活動基盤の強化も進む

当会の活動の基盤となる法務、情報技術、財務基盤、広報、人事等の強化も進んできました。法務では安定的な各種法務活動の推進のため、NPO法人化後初となる活動報告書等の作成に取り組み完了しました。また、情報技術でも同様の目的の下、ホームページやgoogle、Microsoftアカウント、discord、canvaの管理等を安定的に提供しています。財務基盤については、協賛金の営業と獲得を行うとともに、引き続き進めています。また、広報分野では各支援先団体と協力し、定例広報に努めるとともに、今後の抜本的な広報の推進に向けた準備を進めています。人事についても採用業務を定例的に行うとともに、内部人材の育成に向け活動が進んでいます。



2025 SECOND HALF ACTIVITY REPORT

## 2025年度後期活動報告

community

## 首都圏生徒会連盟支援事業

交流会の開催や団体運営に関する  
包括的な支援

首都圏生徒会連盟は2005年に活動を始めた、歴史ある団体です。首都圏生徒会連盟  
 新型コロナウイルスの影響で活動を停止していましたが、2025年4月の再始動することとなり、同時に弊会が支援を開始しています。  
 2025年の後期においては、2025年8月に実施した交流会の結果を踏まえ、さらなる規模の拡大と提供価値の最大化を目指し、2025年12月27日に首都圏生徒会連盟冬季交流会を開催しました。当日は首都圏生徒会交流会のほか、2つのイベントが開催されるなど、非常に厳しい環境ではありましたが、一都三県の生徒会役員を中心に30人以上が集合し、首都圏生徒会連盟の再始動にふさわしい場となりました。その中で弊会は共催として、企画支援や広報支援、会場確保等の全般的な運営支援に取り組みました。  
 また、運営面では2026年初頭に代表及び幹部等の交代等、再始動後初の世代交代も行われました。今後もさらなる支援を推進してまいります。



community

## 東京都公立校生徒会連盟支援事業

東京の公立校の生徒会活動促進に関する  
包括的な支援

東京都公立校生徒会連盟が設立されたのは、「私立高校の先進的東京都公立校生徒会連盟  
 な活動の情報が、都立高校では活きない」という課題観からでした。都立高校の生徒会顧問の先生方は特に「他の都立校と足並みを揃える」ことが重要視することから、都立高の生徒会役員は他の都立高、公立高との交流が求められる一方、首都圏生徒会連盟等では公立校へのアプローチが弱いという課題がありました。そこで、2026年1月に首都圏生徒会連盟の都立高メンバーが集まり、新たな団体、「東京都公立校生徒会連盟」が設立されました。当会は設立時の設計等に携わるとともに、設立以後は運営陣の確保や組織設計等のため協力を実施しています。  
 今後は2026年5月に首都圏生徒会連盟と合同で「首都圏春季生徒会交流会」の開催することとすることで、その企画等の全般的な支援を行うとともに、今後はさらなる外部との連携を見据え戦略的な支援を実施することにより、東京等の公立校の生徒会活動の発展を目指していきます。



**生徒会、その先へ。**  
**東京都公立校生徒会連盟**

2025 SECOND HALF ACTIVITY REPORT

## 2025年度後期活動報告

community

## 福岡生徒会連盟支援事業

## 日本最大規模の地域交流会の開催に向け、徹底的な支援を実施



福岡生徒会連盟は2024年12月に設立された団体です。比較的新しい団体ではありますが、その交流会の参加者数は2025年度を通して全国で最大です。

生徒会交流をさらに活発にするべく、オンライン、オフラインにおける交流会の企画、運営を学校等と協力し実施しています。2025年度後期には、福岡県福岡市の東福岡高等学校の生徒会執行部や城南高校の生徒会執行部などと協力し、福岡県内の生徒会交流をさらに活発にするべく、オンライン、オフラインにおける複数回の交流会を実施しました。2025年12月に東福岡高校において「福岡生徒会交流会」を例年通り開催し、33校240名の参加の下交流を推進するとともに、教員向けの交流会も開催し、生徒・教員両方の意識改善を目指しました。その他にも2025年11月には城南高校でも交流会を開催するなど、外部連携が広がっています。また、オンライン交流会の実施しています。以上のような活動の中で、弊会は全面的な伴走支援を実施し、企画内容やzoom等の提供を実施しています。

また、昨年12月の生徒会交流会で同時開催された、九州生徒会グランプリでは理事長の針尾、理事の阿部が審査員として参加しました。

今後もさらなる発展に向け、支援を継続してまいります



community

## 学生団体UNITY支援事業

新たな生徒会交流会の開催  
学生×行政×地域 進化する生徒会交流会

学生団体UNITYは弊会が支援している団体の中で唯一、生徒会団体ではない団体です。福岡県中間市で活動しています。2026年8月に「第1回中間市生徒会交流会」を開催します。弊会では、開催に向け、運営の支援やグループワークの準備の支援を行なっています。また、中間市・中間市教育委員会の後援が決まったため、行政、関係機関と協力しながら交流会の開催に向けて準備していきます。

## 中間市の生徒会の現状

中間市には高校が2校、中学校が4校あります。どの学校の生徒会も様々な企画や活動を行っています。

しかし、学校内での活動が中心となっているため、学校同士の交流や外務活動が活発ではないという問題点があります。

その課題を解決するために学生団体UNITYは立ち上がりました。

UNITYには生徒会経験豊富な学生が多数いるため、その経験や想いも交流会を通して伝えていきたいと思っています。



やってみようから、まちが変わる。

若者の「やってみよう」が、まちを動かす力になる。  
そんな思いから、私たちは2025年、  
地域に新しいチャレンジを届ける  
プロジェクトをスタートしました。

2025 SECOND HALF ACTIVITY REPORT

## 2025年度後期活動報告

community

## いしかわ生徒会交流会支援事業

新設された団体への  
包括的な支援

いしかわ生徒会交流会は、2026年3月に設立された新しい団体です。石川県内の各校の生徒会活動を推進するため、交流会だけではなく様々な企画を推進しています。弊会は2026年3月の設立以来、運営支援を行ってまいりました。

交流会の企画・運営に関する支援に加え、団体運営全般に関する包括的なサポートを行い、活動の安定化や継続的な運営に向けて取り組んできました。また、運営体制の整備や広報活動に関する支援なども行い、団体としてより円滑に活動できる環境づくりに努めてきました。

設立間もない団体ならではの課題や変化もある中で、関係者の皆様と連携しながら、一つひとつ課題に向き合い、交流会の発展に向けた支援を続けてきました。

弊会としても、こうした支援を通して、いしかわ生徒会交流会の活動や今後の発展に少しでも力となることができている嬉しく思います。



community

## 相馬市立向陽中学校支援事業

主体的な生徒会の構築に向け、  
1年スパンでの研修を提供

相馬市立向陽中学校は、福島県相馬地域に所在する公立中学校です。生徒会顧問の先生から弊会にご連絡をいただき、2025年度前期より「生徒会アドバイザー」として、週1回の研修を通じ生徒会執行部に対する伴走支援を行ってまいりました。

2024年度の活動時は教員主導での活動が中心となっており、生徒会役員が主体的に動く機会が少ないという課題があったことから、弊会では生徒会の活動するテーマ（例：いじめ根絶集会や全校レクリエーション、向陽中サミット、学力向上等）の進捗状況に合わせながら、顧問の先生と連携しプロジェクト実施手法に関する研修の実施しました。

2025年度前期には研修的な講義を中心に行いながら活動の基礎となる考え方、各種手法等の力をつけ、後期はより自由度の高い運営にすることで生徒会役員の主体性をさらに引き出すことのできるよう、工夫を凝らした研修設計を行い、主体的に活動する生徒会が実現しました。

なお、以上のような取り組みの結果、福島県いじめ防止ラウンドテーブルや令和7年度全国いじめ問題子どもサミットにも招待され、代表生徒が参加して発表等を行いました。



## 2025年度後期活動報告

community

## 合同研修事業

全支援先団体/当会内部の合同研修で  
団体運営のさらなる向上に努める

従来の生徒会団体の運営計画立案においては、各団体の活動の延長線上の活動しか行うことができない点が課題として挙げられていました。また、一部団体においてはそもそも年間計画の策定が行われていないことや、成果指標が設定されていないことも多く存在しました。その結果、生徒会外務環境全体での拡大はほとんどなされず、コンテンツの強化も不十分な状態となっていました。

そこで当会は、当会職員及び関連団体（支援先及びそのほか協力先）に対しプロジェクト実施手法に関する研修を行うことで、振興会職員と関連団体幹部の視座を高め、各団体及び当会内部の活動計画の策定において長期的視点に立って行うよう研修を行いました。

本研修を通じ、参加者は基幹シートを活用した情報の可視化や、課題から逆算する論理的な計画立案手法を習得しました。客観的なデータに基づく振り返りや、属人化を防ぐ引き継ぎ体制の重要性を再認識したことで、従来の経験則に頼らない組織運営への指針を得ました。また、活動の目的を深く問い直すことで、受動的な姿勢から脱却し、主体的に運営の質を高めようとする意識変容が見られました。

community

## 団体運営陣交流会事業

交流会開催による  
支援先団体間での交流の機会の創出

団体運営陣交流会事業では、支援先団体同士による交流会をオンラインにて実施しました。

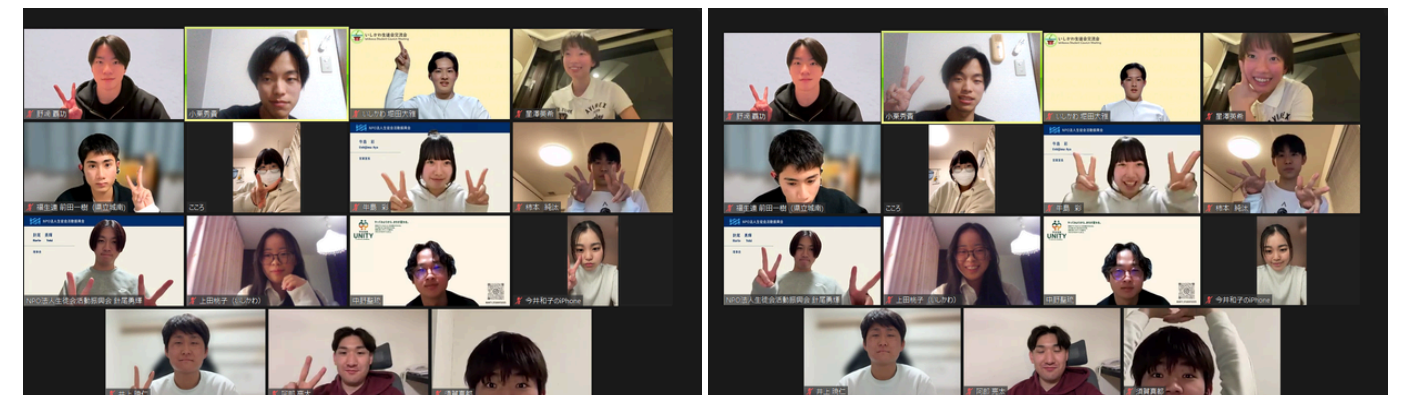
支援先団体の運営メンバーや弊会メンバーが多数参加し、各団体が抱える課題や、その解決に向けた取り組みについて意見交換やディスカッションを行いました。

交流会では、各団体の広報手法や組織運営の方法、交流会の企画運営に関する工夫など、多岐にわたるテーマについて話し合いを行いました。

それぞれの団体が持つ経験や事例を共有することで、新たな視点や運営のヒントを得られる機会となり、団体同士のつながりを深める場にもなりました。

また、普段は地域を越えて交流する機会の少ない団体同士が意見交換を行うことで、全国の生徒会団体が抱える共通の課題や、それぞれの地域ならではの取り組みについて理解を深めることができました。

弊会としても、こうした交流を通して、各団体の活動がより活発なものとなるよう支援を行ってまいります。



## 2025年度後期活動報告

community

## 編集事業

記事の公開を通して  
全国の生徒会団体の手法を共有

編集事業では、全国の生徒会団体の活動やイベントに関する記事を作成することで、他の生徒会団体や全国の生徒会役員の皆様に向けた情報発信を行ってきました。

各団体の取り組みや活動内容を発信することで、生徒会活動に関わる方々が新たな事例や考え方に触れられる機会をつくり、団体同士のつながりや活動の活性化につながるよう努めてきました。

また、実際に生徒会団体を実施するイベントへ参加し、現地での取材や各種関係者へのインタビューなどを行うことで、活動の魅力や現場の様子をより分かりやすく伝えられるよう取り組んできました。

記事制作にあたっては、正確で分かりやすい情報発信を心がけながら、読者の皆様にとって価値のある内容を継続的に届けられるよう努めてきました。

これらの活動を通して、全国の生徒会活動の魅力や各団体の取り組みを広く発信し、生徒会活動の発展に少しでも貢献できるよう活動してきました。



community

## 生徒会甲子園事業

編集事業では拾えない先進事例を  
コンペティション企画で拾い、全国に届ける

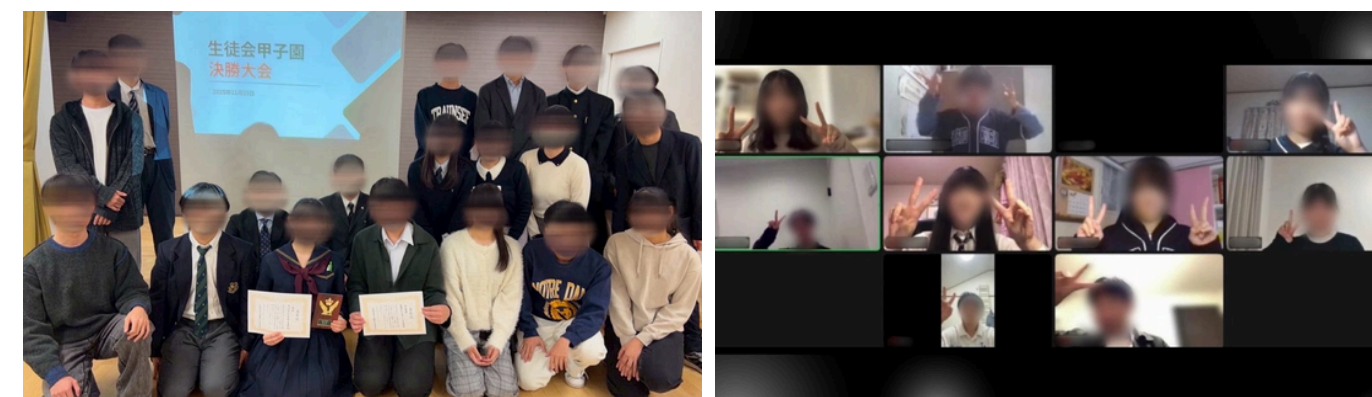
生徒会甲子園は、各校の生徒会役員がそれぞれの活動事例を持ち寄り、発表を行うコンペティションです。

従来 of 編集事業では、弊会側があらかじめ先進事例を把握していなければ取材につなげることが難しいという課題がありました。しかし、生徒会甲子園を開催したことで、これまで発見することのできなかった新たな活動事例や取り組みに触れることができ、それらを広く発信する機会につなげることができました。

第一回となる今回は、2025年11月27日に渋谷区地域交流センター本町にて開催し、一次選考を通過した学校の生徒会役員の中から、4校がプレゼンテーションを行いました。

一次選考を通過した参加者の皆様には、それぞれの学校や団体で行っている特色ある取り組みについて発表していただき、多くの参加者にとって新たな学びや刺激を得られる場となりました。

また、参加者同士の交流や意見交換を通して、地域や学校の枠を越えたつながりが生まれ、生徒会活動に関する情報共有の場としても大きな意義のあるものとなりました。



## LIST OF RELATED ORGANIZATIONS

## 関係団体一覧

当会は団体支援事業の開始以来、関係団体の思いを形にするため、多くの団体の設立や運営に携わってきました。今現在支援している5つの団体のうち4つは設立から携わり、残る1つの団体も団体の活動再開時から携わっています。今後も多くの人々の思いが詰まった各団体に対し徹底的に支援を行うことで、全国における生徒会外務環境の向上に努めてまいります。また、同時に学校伴走支援にも力を入れています。高校生、大学生が顧問の先生と協力し、伴走支援を提供しています。

## 生徒会活動振興会

団体名	特定非営利活動法人 生徒会活動振興会
関係枠組み	当会
活動地域	日本全国
設立	2023年4月
法人格取得	2024年11月
理事長	針尾 勇輝
運営数	40人
お問い合わせ先	contact@seitokaishinko.org

## 東京都公立校生徒会連盟

団体名	東京都公立校生徒会連盟
関係枠組み	伴走支援
活動地域	東京都
設立	2026年1月
関係開始	2026年1月（設立時）
代表	片岡 優哉
運営数	10人
お問い合わせ先	tokourenseitokai@gmail.com

## 向陽中学校

団体名	相馬市立向陽中学校
関係枠組み	伴走支援
活動地域	福岡県相馬市
設立	1962年3月
関係開始	2025年4月
校長	武口 隆行
生徒会役員数	10人
お問い合わせ先	代表連絡先

## 福岡生徒会連盟

団体名	福岡生徒会連盟
関係枠組み	伴走支援
活動地域	福岡県
設立	2024年12月
関係開始	2024年12月（設立時）
代表	井上 葉月
運営数	20人
お問い合わせ先	Instagram DM

## いしかわ生徒会交流会

団体名	いしかわ生徒会交流会
関係枠組み	伴走支援
活動地域	活動地域
設立	2026年3月
関係開始	2026年3月（設立時）
代表	堀田大雅
運営数	10人
お問い合わせ先	Instagram DM

## Education Network in Sophia

団体名	上智大学公認サークルEducation Network in Sophia
関係枠組み	総合連携
活動地域	上智大学
設立	2025年10月
関係開始	2025年10月（設立時）
代表	大河原蒼央
運営数	10人
お問い合わせ先	Instagram DM

## 首都圏生徒会連盟

団体名	首都圏生徒会連盟
関係枠組み	支援先
活動地域	首都圏（1都3県）
設立	2005年4月
関係開始	2025年4月（活動再開時）
代表	高橋 萌生
運営数	20人
お問い合わせ先	lscce2005@gmail.com

## 学生団体UNITY

団体名	学生団体UNITY
関係枠組み	伴走支援
活動地域	福岡県中間市
設立	2025年9月
関係開始	2025年9月（設立時）
代表	針尾 勇輝
運営数	20人
お問い合わせ先	Instagram DM

2025年3月31日現在  
継続的な関係性がある団体/学校のみを記載  
2026年度より2団体が支援先団体として参画予定  
運営陣の人数は10名単位で四捨五入